

「賀古駅家、発掘ものがたり」 13 <大量の瓦が出土>



駅館院の東辺に沿った南北溝がほんとうに駅館院を囲んでいるのかどうか、もう少し離れた場所で確認することにし、新たにトレンチを設定しました（6トレンチ）。当然、同じような溝が出てきて、めでたし、めでたしで終わっていたのですが、結果は全く違うものでした。

何が見つかったのかというと、それは大量の瓦でした。これまで5箇所を発掘してきましたが、出土したものは土器と瓦が少々程度。しかし、このトレンチで一気に出土品が増えることとなりました。

たくさんの遺物が出てきたからといって、喜んでそれを拾い集めてはいけません。あくまで、「出土した状態」を記録しなければならないので、出てきたままの状態、土だけを取り除いていく、という作業を続けます。これが結構大変な作業。こうした作業を行うには今回の調査では時間もお金も足りません。また、現在設定しているトレンチの大きさだけでは、全体の状態を理解することもできません。

そこで、このトレンチの調査はひとまず終了し、次年度に持ち越すことにしました。遺物が壊れないように養生し、再び土をかぶせて埋め戻し。しばしのお別れです。無理をしないで予算と相談しながら引き際を見極める。調査を終了する決断も調査員として重要なことです。なぜなら、地中にさえあれば、遺跡や遺物は壊れることなく、そこにあり続けるのですから。

兵庫県立考古博物館 学芸員 中村 弘